JICA九州主催 2023年度

開発教育指導者研修 報告書

〈目 次〉

研修概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1 ページ
実施一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2 ページ

第 1 回研修　多文化共生について理解を深めよう・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 ページ
第 2 回研修　教育現場の外国につながるこどもたち・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 ページ
第 3 回研修　SDGs のアクティブラーニング活用法・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 ページ
第 4 回研修　人を啓き、社会を開き、未来を拓く 開発教育・国際理解教育・・・12 ページ

＜研修概要＞

【目的】
①開発教育/国際理解教育の理解促進
②参加者教員間の横のつながり（ネットワーク）を構築
③持続的に学びあい、授業実践ができるよう継続的に情報共有

【実施回数】
年 4 回実施

【実施方法】
第 1 回から第 3 回　Zoom オンライン
第 4 回　　JICA 九州センターでの対面

【参加対象】
九州各県の小・中・高等学校または特別支援学校の教員、その他教育関係者

＜実施一覧＞

回数	日時	時間	研修テーマ	講師名（敬称略）	受講者数
1	2023年9月23日（土・祝）	10:00～12:30（2時間半）	多文化共生について理解を深めよう	森　宏介	11
2	2023年11月11日（土）	10:00～12:30（2時間半）	教育現場の外国につながるこどもたち	和田　さとみ	9
3	2023年12月9日（土）	10:00～12:30（2時間半）	SDGsのアクティブラーニング活用法	庄田　清人	8
4	2024年1月28日（日）	9:00～12:45（3時間15分）	人を啓き、社会を開き、未来を拓く 開発教育・国際理解教育	伊沢　令子	17
				合計	45

＜第１回研修＞

【テーマ】「多文化共生について理解を深めよう」～多文化共生って何？教師の役割は？～

【日　時】2023 年 9 月 23 日（土・祝）、10:00～12:30（2 時間 30 分）

【方　法】Zoom オンライン

【講　師】森　宏介（もり　ひろすけ）氏

現在●福岡外語専門学校 副校長

経歴■福岡県国際理解教育研究会　会長

■NPO 法人　アジア太平洋こども会議・イン福岡教育交流部会長

■校長としてシンガポール補習授業校

■米国ワシントン補習授業校に勤務（文科省・派遣教員）

【チラシ】

【内　容】

＜講義＞

・福岡外語専門学校の紹介
・多文化共生社会の実現は思いのほか難しい！
・海外生活で私が感じた文化ギャップ
・私たちが住む地域は多文化共生か？
・外国人をとりまく現状
・多文化共生社会を構築する社会的意味

＜グループワーク＞

・あなたが感じる文化ギャップ
・文化ギャップを乗り越えるために
・私たちに何ができるでしょうか？

【参加者満足度】（10 名が回答）

5 とても良かった（満足）～ 1 とても悪かった（不満足）

5　とても良かった（満足）	8
4	2
3	0
2	0
1　とても悪かった（不満足）	0

【参加者感想】

・開発教育に興味を持っている先生方が多くいらっしゃることに感銘しました。
・グループディスカッションを挟むことでインプットからアウトプットでき、考えを深められました。
・実際に合った問題や取り組みを知れてよかったです。
・他校種で意見を共有できたこと。一方、同じ校種でのグループも一度あるとよかったです。
・森先生の授業実践例について、授業の展開などもっと詳しく知りたいです。
・交流があり、森先生の実践の紹介があったのが勉強になりました。
・貴重なお話を伺えて、意識を刷新できたので良かったです。

【研修の様子】

本校の事例①
3分過ぎると欠席！
授業の始まりと終わりに「礼」
出席率は95%以上！
授業終了後は掃除！
WHY?
学習文化の違い
WE ARE A GLOBAL FAMILY!

多文化共生に向けて解決すべき課題
-すべての人が能力を発揮できる社会へ-
外国人に関する問題の解決
日本の若年層の理解
日本語で生活できるように
子供の教育
雇用・労働環境
医療・社会保障
住居の安全確保
治安
多言語化による外国人への情報提供
WE ARE A GLOBAL FAMILY!

WE ARE A GLOBAL FAMILY!

＜第 2 回研修＞

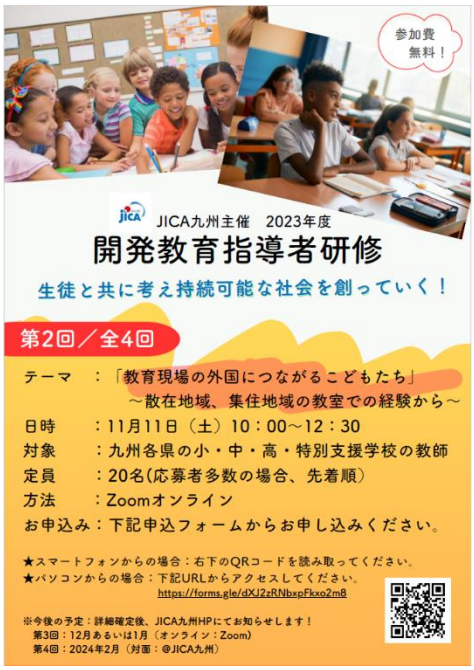
【テーマ】「教育現場の外国につながるこどもたち」
～散在地域、集住地域の教室での経験から～

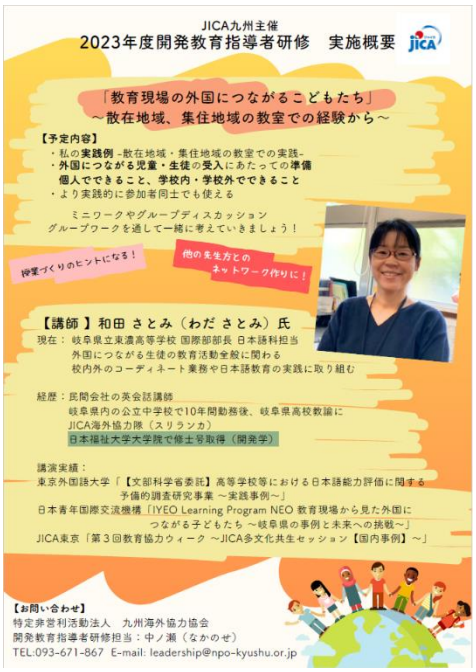
【日　時】2023 年 11 月 11 日（土）10:00～12:30（2 時間 30 分）

【方　法】Zoom オンライン

【講　師】和田　さとみ（わだ　さとみ）氏
現在●岐阜県立東濃高等学校　国際部部長　日本語科担当
経歴■民間会社の英会話講師
■岐阜県内の公立中学校で 10 年間勤務後、岐阜県高校教諭
■JICA 海外協力隊（スリランカ）
■日本福祉大学大学院で修士号取得（開発学）

【チラシ】





【内　容】

・私の実践例 –散在地域・集住地域の教室での実践–

・外国につながる児童・生徒の受入にあたっての準備
　個人でできること、学校内・学校外でできること

・より実践的に参加者同士でも使えるミニワークやグループディスカッション

【参加者満足度】（7 名が回答）

5 とても良かった（満足）～ 1 とても悪かった（不満足）

5　とても良かった（満足）	6
4	1
3	0
2	0
1　とても悪かった（不満足）	0

【参加者感想】

・海外からの就労者の子どもの状況が理解できました。

・本校にも数名外国につながる生徒がいます。強み（文化の違い）を他の日本人生徒に伝える場を設けたり、相互の国際理解に役立てたり、外部機関との連携を維持したり等実践したいと思いました。

・「生徒の言語能力と認知能力が一致した学習内容で行うことが大事」という話が一番印象的でした。加えて、それは私達が支援される側になった時にも感じられる違和感だということに気づきました。支援される側の立場になること、つまり自分ごととして考えて行動しようと思いました。

・「外国にルーツがある人が日本の生活で悩むことは言語によるものだけではない」ということが今回の研修で得た一番の学びです。

・教員間での協働の大切さ、地域や関係機関との連携の重要性を改めて感じましたが、すぐには取り組めない難しさもあると感じました。

・私の当たり前は、他者の当たり前ではないという意識をもって、日々子どもの対応をしていきたいと思います。

・今回扱った分野に対してさらに興味が湧きました。今回の活動を第一歩として、調べるなどしてこのような研修の場に足を運んでみたいと思いました。

【研修の様子】

【JICA九州】2023年度 開発教育指導者研修（オンライン）
２０２３年１１月１１日（土曜日）
教育現場の外国につながるこどもたち
～散在地域、集住地域の教室での経験から～
❶外国につながる児童生徒
❷学校・個人でできること
❸岐阜県の実践事例
岐阜県立東濃高等学校
日本語科　和田　さとみ

＜第 3 回研修＞

【テーマ】SDGs のアクティブラーニング活用法
～みんなでワーク体験！自分の教室に持ち帰り実践しよう～

【日　時】2023 年 12 月 9 日（土）10:00～12:30　（2 時間 30 分）

【方　法】Zoom オンライン

【講　師】庄田　清人（しょうた　きよひと）氏
現在●一般財団法人ちくご川コミュニティ財団理事 兼 事業部長
●SDGs de 地域創生 公認ファシリテータ
●学校現場で多数 SDGs 講座の開催

【チラシ】

【内　容】

・SDGs とは？：基礎をおさらい 、折り返し地点の今、これまでとこれから
・SDGs を通したアクティブラーニングの実践例について
・学校と地域が連携した SDGs の実践例について
・グループディスカッション
・所属校での現状と課題
・ミニワーク：SDGs アクションカードゲーム

【参加者満足度】（5 名が回答）

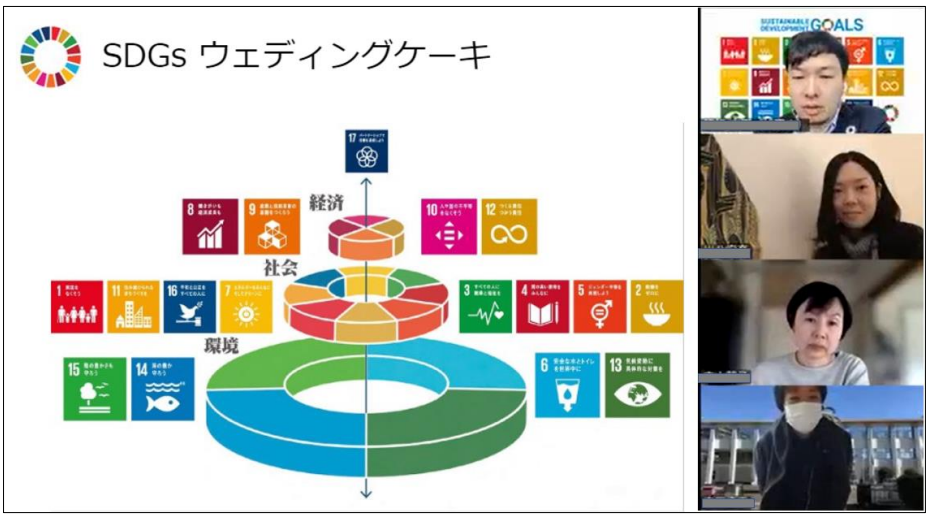
5 とても良かった（満足）～ 1 とても悪かった（不満足）

5　とても良かった（満足）	4
4	1
3	0
2	0
1　とても悪かった（不満足）	0

【参加者感想】

・カードを用いたディスカッションは手軽に始められると感じました。生徒へ問題意識を持ってもらい、思考力、ディスカッション力をつけることができると思いました。
・まずは身近なところから気づきのきっかけを提示したいと思いました。その後、困りごとの解決に向けて、高校生目線で何ができるのかを考える機会を設けたいと思いました。
・SDGs について学ぶ機会が今まであまりなかったので、とてもためになりました。また、ディスカッションをするためのカードがあることも初めて知りました。意見交換ができて大変有意義でした。
・SDGs に関する課題はどこにでもありますが、それに気付く準備ができているかどうかが重要であり、そのために教育現場で活動を展開することが必要だと学べました。
・カードゲームは、SDGs の入門や、アクションプラン作成の際に役立ちそうです。

【研修の様子】



＜第 4 回研修＞

【テーマ】学び合いを通じたネットワークづくり

【日　時】2024 年 1 月 28 日（日）9:00～12:45（3 時間 45 分）

【方　法】JICA 九州センターでの対面

【講　師】伊沢　令子（いざわ　れいこ）氏

現在●NPO 法人 NIED・国際理解教育センター代表理事

●オルタナティブ・スクールあいち惟の森 代表理事

●中京大学「国際理解教育論」、

愛知学院大学「ファシリテーション」非常勤講師

経歴■ERIC 国際理解教育センターでの研修を経て、

1988 年に NIED・国際理解教育センターを設立。

■自治体、教育委員会、国際関係団体、大学・学校、NPO/NGO などの

依頼により年間 100 回以上の参加型ワークショップを実施。

【内　容】

＜ねらい＞

1. 開発教育/国際理解教育の目的、内容、方法について、体験を通して理解を深める。
2. 開発教育/国際理解教育に継続して取り組むために必要なこと・役立つことを具体的に考え共有する。
3. 参加者同士多角的に知り合い、九州 7 県における開発教育実践者・推進者のネットワークづくりを進める。

＜プログラム＞

1. ねらいの確認
2. アイスブレイク
   - ・知り合おう！「名刺で自己紹介」
   - ・もっと知り合おう！「カードで自己紹介」
3. 私たちと世界のつながり！？
   - ・鎖国シミュレーション＜派生図＞
4. 私たちが生きる社会をふりかえる
   - ・世界の課題、日本の課題　－変えたいもの・解決したいことは何？－＜KJ 法＞

・資料「SDGs17 のゴールから見た世界と日本の現状」＜量的に捉える＞

5. 共に知り・共に越える共通の課題 －STOP！気候崩壊 STOP！地球温暖化－
   ・もしも世界の平均気温が 2℃上がったら？＜派生図＞
   ・資料「IPCC 報告書」を読解し、問題の現状と影響を確認する＜量的に捉える＞
   ・問題の原因を探り、問題解決に必要なもの・役立つこと・できることを考える＜因果関係図／行動計画＞
6. 開発教育・国際理解教育とは
7. はじめよう！つながろう！ひろげよう！開発教育！
   ・JICA 中部の事例
   ・ここから私たちから始めよう
   －実践・継続・つながるためのアイデアとはじめの 1 歩－＜行動計画＞
8. ふりかえり

【参加者満足度】（17 名が回答）

100% とても良かった（満足）～ 0% とても悪かった（不満足）

100%　とても良かった（満足）	12
90%	1
80%	4
〃	0
0%　とても悪かった（不満足）	0

【参加者感想】

・先生方とのつながりを作れたことや、「明日から、また頑張ろう！」と前向きに開発教育/国際理解教育と向き合えました。
・ワークショップでは盛り上がりながらも学びがあり、充実した時間でした。
・自分一人では分からなかったこと、解決できなかったことなどをたくさんの先生方と話すことで解消することができました。情報共有の大切さを実感しました。
・これまで、手を替え品を替え国際教育を授業でやってきましたが、さらに新しい手法で生徒たちにも先生たちにも伝えていきたいと思いました。
・3 時間半が想像以上にあっという間でした。それだけ内容が濃く、楽しかったのだと思いました。

【研修の様子】